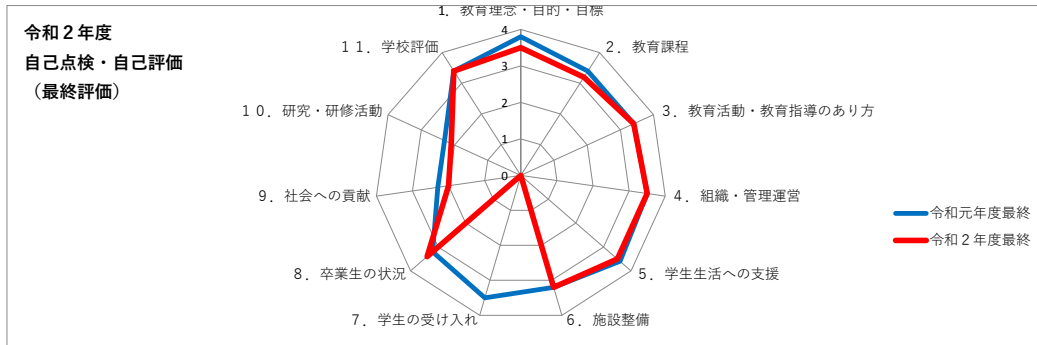


# 令和2年度 自己点検・自己評価および外部評価結果

2021/3/31 富山病院附属看護学校

## ○ 大項目 評価点平均

評価基準：4点：適切、3点：ほぼ適切、2点：やや適切、1点：不適切



## ○ 大項目における令和2年度の概要と課題

### 1. 教育理念・目的・目標 (3.5点)

今年度は、COVID-19の影響により、教育理念に基づいた、目的・目標の達成に向け、学生の学習をどのように支えるかという点においてかなり協議を要した。学生には、これらが行動レベルで実施できるよう指導をしてきた。しかし、学習意欲の継続という点においては、対面講義は7月から導入できたが、COVID-19の影響に伴う実習施設の受け入れ中止・再開など日々方法を変更したため、教育理念に沿った看護師になる上での影響は大きい。今後も集団指導・個別指導などにより、学生を支援する必要がある。

学生が、卒業までに目指すことは明示されており、各学年の指導計画は適宜、教員会議にて協議している。実践能力の育成に向けての知識・技術・態度の修得は、各学年担当が中心になり、科目・領域において対応している状況である。

### 2. 教育課程 (3.2点)

閉校が決まり、新規のシラバスを作成する機会はないが、授業の実施後、教育課程の整合性を確認し、実施にあたり常に見直しの目をもって改善に努めるようにしている。

### 3. 教育活動・教育指導のあり方 (3.4点)

COVID-19の影響で、学生への指導としては不十分であったことは否めない。老朽化もあり整備は必要であるが、昨年度、プロジェクター 学生パソコンの新規購入、タブレットパソコンの導入など一部改善している。また、多機能モデル人形の買い替えも行い、後期より効果的な授業・演習を行う様に工夫している。講義においては各学年にカリキュラム担当を置いており、外部講師の日程調整や学生への時間割掲示、変更調整が可能な限り迅速に行う様努めている。ただし、新任の教員もおり、教員1人当たり授業時間・実習時間に差異もあった為検討し、調整をはかった。カリキュラム評価では、思考を整理しやすい様にその関連性や重複の有無、統一性といった視点で検討している。

### 4. 組織・管理運営 (3.5点)

学校職員については指定規則要件となっている。  
次年度より新入生の募集の停止のため、学校運営と閉校の準備を並行して行う必要があり、より業務を整理して計画的に実施していくことが必要な状況にある。  
また、今年度新型コロナウイルス感染のため、会議方法の変更もあった。職務分掌内での新規マニュアル作成が一部滞っている状況があり、対応を進めている。各学年担当の業務範囲においては、コロナウイルス感染のため、予定された行事日程及び内容等の変更を余儀なくされている。人員の制約がある中、各人が課された業務をスムーズに行えるよう、より一層の連携・協力が必要である。

### 5. 学校生活への支援 (3.5点)

休校中は学生に書面にて行動計画・実施報告をしてもらい学習管理ができる工夫をした。こころの問題に関しては、対象学生に担任から臨床心理士の「こころの耳相談室」の利用を促すなど、カウンセリングの有用性についての周知はされてきていると考える。今年度は、COVID-19の影響を受け、学生自治会活動そのものが中断した状況が続き、現在に至っても、学生の自治への自覚を促す状況に好転が見られたとは言えない。昨年度で学生募集は終了しており、学生数は減少していくこととなる。学生自治としてどのように成立を目指すか早急な対策が必要である。さらに、学生生活においてクラスメイトとの交流の減少に伴う看護学生らしい生活の中断などがあり、学生のニーズの把握に苦慮している。今年度よりハラスメント委員会の周知や意見箱の設置を試みているが、教育理念に沿った看護師になる上でどのように影響しているか、学生の想いを汲み取れているかなど判断に迷うことも少なくない。今後も集団指導・個別指導を通して評価していく。

### 6. 施設整備 (3.2点)

ハード面を是正することは困難なため、運用上の工夫を持って対応している状況にある。その一環として、図書紛失防止対策は、鍵管理の負担が学生に委譲されている状況であった為、これらの問題を考慮しつつ、時間や運用方法について調整をはかった。その結果、紛失図書は減少している。今後も学生が安全な環境下で自主的に効果的な学習ができるように、設備の管理および使用方法のルールの見直しを継続して図っていく。

### 7. 学生の受け入れ

今年度より学生の募集を停止している。

### 8. 卒業生の状況 (3.4点)

COVID-19の感染の影響で、就職活動の機会が大幅に減り、就職の選択の幅も狭まったことは否めない。  
今年度は臨地実習が縮小されたため、看護実践能力の低下が懸念されたが、各実習領域における意識づけと卒業前演習によるフォローアップによる対策で卒業時の実践力の維持に努めることができた。国家試験合格率向上のため、学力の底上げを図るための策を講じ、昨年度不合格者の既卒生とも個別に指導を実施した。その結果、国家試験合格率は全国平均を上回った。

### 9. 社会への貢献 (2.0点)

今年度より学生募集が停止となり、地域との連携と社会への啓蒙については、意図的に学校行事の開催、情報の発信により地域住民、進学希望者等の交流の機会をつくる必要がある。  
ボランティア活動は昨年度までは学生自治会が中心となり活動は行っていたが、今年度はCOVID-19の影響により、外部との接触のある活動は全く実施できていない状況であり、ペットボトルキャップ回収活動のみにとどまっている。今後新しい活動ができないか学生と共に検討していく予定である。今後もCOVID-19の感染状況を見ながら学生が活動していけるように、学生のボランティア活動に対する広報活動、参加の呼びかけ等のサポートを継続する。

### 10. 研究・研修活動 (2.1点)

研修や費用の保障はあるが研究発表や論文投稿などの実績が少なく十分とは言えないが、全教員がNHO東海北陸支部の看護教員での授業研究活動に関わっており、研究をする風土については醸成していく必要がある。また、COVID-19の影響により、研修機会が十分に得られない状況はあるが、リモートでの研修が増えており活用していく。また対外的な講師は1名のみで十分な役割を果たせていないため活動の可能性を探っていく。

### 11. 学校評価 (3.4点)

システムは整っているが、ソフト面での改善は毎年状況に応じて努力している。人事異動などによる役割変更があった際に引き継ぎがスムーズに進む、また教育の質の担保のためにマニュアルの整備の充実をはかり、資料を共有できるような体制を整えていく必要がある。